

AD-8626

オシレータ

取 扱 説 明 書

AND 株式会社 **エー・アンド・デイ**

ご注意

- (1) 本書の一部または全部を無断転載することはお断りします。
- (2) 本書の内容については予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 当社では、本機の運用を理由とする損失、損失利益等の請求については、(3) 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 2003 株式会社 エー・アンド・デイ
株式会社エー・アンド・デイの許可なく複製・改変などを行なうことはできません。

目次

安全にお使いいただくために	2
1. 開梱／点検.....	4
1-1. 開梱.....	4
1-2. 点検.....	4
2. 仕様	5
3. 使用上の注意	7
3-1. 保証範囲	7
3-2. 電源電圧の確認	7
3-3. 使用環境	7
3-4. 機器の設置.....	8
3-5. 入力端子の耐電圧.....	8
3-6. 余熱時間	8
4. 各部の説明.....	9
4-1. フロントパネル	10
4-2. リアパネル.....	10
5. 操作	11
5-1. 操作方法	11
6. メンテナンス.....	13
6-1. ヒューズ交換.....	13
6-2. 電源電圧切換	13
6-3. 本機のお手入れ	13

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

注意事項の表記方法

本取扱説明書の中に記載されている注意事項は、下記のような意味を持っています。

警 告

この表記は、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注 意

この表記は、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

記号

以下の記号は、本取扱説明書及び本機のパネルに記されています。



注意。取扱説明書参照。



接地端子



接地端子

⚠ 警告

機器の異常

機器に異常が認められた場合は、速やかに使用をやめ、電源スイッチをオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると大変危険です。なお、修理に関しては、お買い上げいただいた店、又は最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。お客様による修理は、大変危険ですから絶対におやめください。

電源ケーブル

電源ケーブルは、機器に付属しているケーブルのみを用い、機器を使用する前に、断線やケーブルに傷がないか確認してください。また、感電、故障を防ぐため、三芯の電源ケーブルを使用してください。3P→2P 変換アダプタを用いて、二線式のコンセントから電源を供給する場合は、3P→2P 変換アダプタのグランド端子を接地してください。

ヒューズ

使用するヒューズは「3-2. 電源電圧の確認」に記載されている定格のものを必ず使用してください。直結させたり、定格外のヒューズを使用すると火災や故障の原因になります。

1. 開梱／点検

1-1. 開梱

開梱時に、下記の品物がそろっているか確認してください。

- ・ AD-8626オシレータ本体..... 1
- ・ 付属品
 - 電源ケーブル 1
 - 出力ケーブル 1
 - 取扱説明書 1

注意

本機を再度輸送する場合に備えて、梱包材は捨てずに保管しておいてください。

1-2. 点検

本製品は出荷前に十分な検査を行っています。機器を受け取ったら、輸送中に破損していないか確認してください。もし破損がありましたら、お買い上げいただいた店、又は最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

注意

本機は精密機器ですので、丁寧に扱ってください。強い衝撃を与えると故障の原因となります。

2. 仕様

信号出力

周波数範囲	: 10 Hz ~ 1 MHz (5レンジ)
×1レンジ	: 10 Hz ~ 100 Hz
×10レンジ	: 100 Hz ~ 1 kHz
×100レンジ	: 1 kHz ~ 10 kHz
×1kレンジ	: 10 kHz ~ 100 kHz
×10kレンジ	: 100 kHz ~ 1 MHz
ダイヤル精度	: ±(3%+1Hz) (10、100の位置において)
出力インピーダンス	: 約600Ω
出力減衰器	: 0 dB、-10 dB、-20 dB、-30 dB、-40 dB、-50 dB (6ステップ、精度: ±1 dB、600Ω負荷)

正弦波

出力振幅	: 5 V rms 以上 (600Ω負荷)
周波数特性	: ±0.5 dB (10 Hz ~ 1 MHz) (600Ω負荷、1 kHz基準)
歪み率	: 500 Hz ~ 20 kHz : 0.02%以下 100 Hz ~ 100 kHz : 0.05%以下 (100 Hz は×10レンジ、100 kHz は×1kレンジ) 50 Hz ~ 200 kHz : 0.3%以下 20 Hz ~ 500 kHz : 0.5%以下 10 Hz ~ 1 MHz : 1.5%以下

方形波

出力振幅	: 10 V p p 以上 (無負荷)
立上り/立下り時間	: 200 n s 以下
対称性	: 50% ± 5% (1 kHz、最大出力時)
オーバーシュート	: 2% 以下 (1 kHz、最大出力時)

外部同期 (EXT SYNC)

同期レンジ	: ±1% / 1 V rms
最大入力電圧	: 15 V (DC+AC peak)
入力インピーダンス	: 約150 kΩ

電源電圧

電圧	: AC 100 / 120 / 220 / 230 V ± 10% 選択
周波数	: 50 Hz / 60 Hz
消費電力	: 10 VA、8 W

動作環境

使用温湿度範囲	: 仕様保証温度範囲 10 ~ 35℃、85% RH 以下 (結露しないこと)
	最大動作温度範囲 0 ~ 40℃
	最大動作湿度範囲 85% RH 以下 (結露しないこと)
保存温湿度範囲	: -10 ~ 70℃、70% RH 以下 (結露しないこと)

サイズ

寸法 : 130 (W) × 250 (D) × 200 (H) mm

重量 : 約3.0 kg

付属品 : 電源ケーブル 1

出力ケーブル 1

取扱説明書 1

3. 使用上の注意

3-1. 保証範囲

正常なご使用状態で万一故障した場合には、保証書の記載内容により修理をいたします。

3-2. 電源電圧の確認

本機は以下の表に示すように4種の電源電圧に対応しています。電源ケーブルを差し込む前にリアパネルの電源電圧切替器が正しい位置に設定されていることを確認してください。間違った電圧設定のまま電源ケーブルを差し込むと、感電や火災、故障の原因になります。

出荷時には、電源電圧は100Vに設定されています。

⚠ 注意

感電防止のため、電源ケーブルのグラウンド端子は必ず接地してください。

電源電圧を変える際には、以下に示すヒューズを用意してください。

電源電圧	電圧範囲	ヒューズ	電源電圧	電圧範囲	ヒューズ
100V	90 - 110V	T 0.1A 250V (φ5×20mm)	220V	198 - 242V	T 0.05A 250V (φ5×20mm)
120V	108 - 132V		230V	207 - 250V	

⚠ 注意

感電防止のため、ヒューズホルダを外す前に本体から電源ケーブルを抜いてください。

3-3. 使用環境

⚠ 注意

- ・長時間直射日光を受ける場所や、密閉された車内、ストーブなどの暖房器具の近くではご使用にならないでください。本機の動作温度範囲は、0℃～40℃です。この温度範囲を超えて使用した場合は故障の原因になります。
- ・暑い所から寒い所へ、また寒い所から暑い所への急な移動は避けてください。急激な温度変化により、内部に水滴がつくことがあります。
- ・湿気やほこりの多い所では、火災や感電、故障の原因になります。本機の動作湿度範囲は 85%RH 以下です。また誤って内部に水が入ると、火災や感電、故障の原因となります。本機の周辺には水の入ったものを置かないでください。
- ・危険防止のため、爆発性のガスがあるような場所でのご使用は避けてください。

3-4. 機器の設置

本機の近くにものを置かないでください。本体内部の熱が上昇し、火災や故障の恐れがあります。

3-5. 入力端子の耐電圧

入力端子の耐電圧は以下の表の通りです。以下の電圧を越えないようにしてください。

入力端子	最大入力電圧
EXT SYNC	15V(DC+Acpeak)

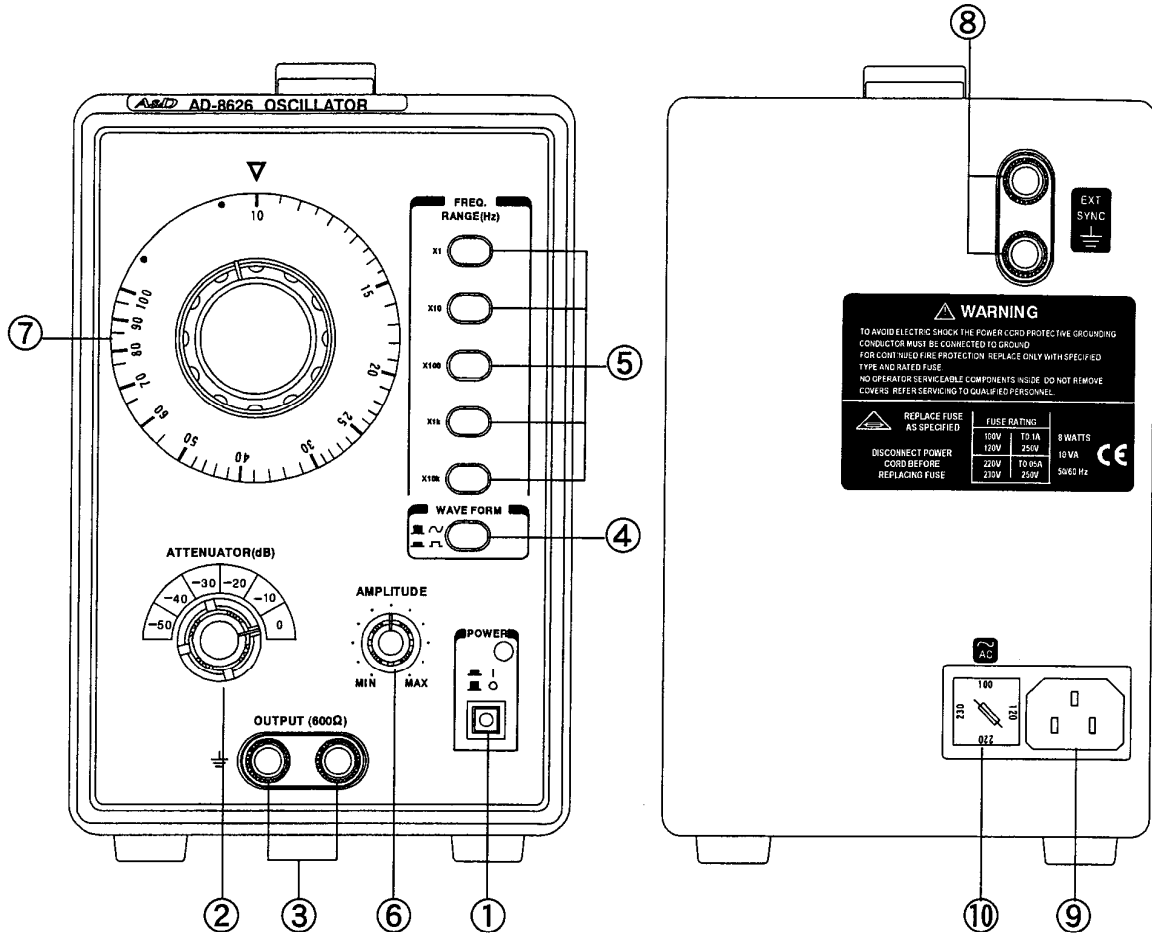
⚠ 注意

機器の損傷を避けるために、最大入力電圧を超える電圧を入力しないでください。

3-6. 余熱時間

本機の性能規格は、電源投入から 30 分以上経過した後の保証値です。

4. 各部の説明



フロントパネル

リアパネル

4-1. フロントパネル

①電源スイッチ

電源オン/オフをします。電源がオンのときには、電源スイッチの上のランプが点灯します。

②減衰器

この減衰器は、10 dBステップで0 dBから-50 dBまで切り換えることができます。

③OUTPUT端子

この端子は正弦波と方形波の、どちらか選択された信号波形が出力されます。黒の端子がグラウンド（GND）を示しています。

④出力波形選択ボタン

出力波形（正弦波または方形波）を選択します。

⑤周波数レンジ設定ボタン

出力周波数のレンジを選択します。

設定ボタン	×1	×10	×100	×1k	×10k
周波数レンジ	10 Hz 100 Hz	100 Hz 1 kHz	1 kHz 10 kHz	10 kHz 100 kHz	100 kHz 1 MHz

⑥出力レベル調整ツマミ

出力の振幅を調整します。

⑦周波数ダイヤル

出力周波数を調整します。

4-2. リアパネル

⑧外部同期入力端子（EXT SYNC）

外部同期用の入力端子です。

⑨AC電源入力

電源ケーブルを接続します。

⑩電源電圧切換器（ヒューズホルダ付き）

電源電圧の切り換え及びヒューズが収納されています。電源電圧の設定及びヒューズについては、「3-2. 電源電圧の確認」を参照してください。

5. 操作

5-1. 操作方法

- (1) 電源ケーブルをリアパネルの⑨AC電源入力に接続し、電源コンセントに差し込みます。
- (2) 電源を入れ、各スイッチを目的の位置にセットします。
- (3) 目的の周波数レンジに⑤周波数レンジ設定ボタンをセットし、⑦周波数ダイヤルを以下のように合わせます。例えば、⑤周波数レンジ設定ボタンを×100にセットし、⑦周波数ダイヤルを50にセットすると、出力周波数は5kHz ($100 \times 50 = 5000 = 5k$) となります。
- (4) ④出力波形選択ボタンで正弦波、方形波のいずれかを選択します。ボタンがオフ（押し込まれていない状態）で正弦波、オン（押し込まれた状態）で方形波が選択されます。
- (5) 出力の振幅を変えるには、⑥出力レベル調整ツマミと②減衰器で設定してください。設定例として振幅をセットする手順を以下に示します。
 - a. ③OUTPUT端子に電圧計を接続します。②減衰器を0dBにセットして、電圧計の表示が1Vrmsになるように⑥出力レベル調整ツマミを回します。
 - b. ②減衰器を-10dBにセットすると、振幅は316mVrmsになります。
 - c. ②減衰器を-20dBにセットすると、振幅は100mVrmsになります。
 - d. ②減衰器を-30dBにセットすると、振幅は31.6mVrmsになります。
 - e. ②減衰器を-40dBにセットすると、振幅は10mVrmsになります。
 - f. ②減衰器を-50dBにセットすると、振幅は3.16mVrmsになります。
- (6) ⑧外部同期入力端子に正弦波（外部入力信号）を入力すると、外部入力信号と同期した周波数の信号が③OUTPUT端子から出力されます。同期する範囲は外部入力信号の振幅に比例して図5-3. に示されるように、1Vrmsの入力電圧につき±1%です。

設定例

⑧外部同期入力端子に3Vrms / 100kHzの正弦波を入力した場合、本機の出力周波数の設定が97~103kHzの間であれば、③OUTPUT端子からは100kHzの周波数の信号が出力されます。

⚠ 注意

⑧外部同期入力端子に3Vrms以上の外部入力信号を入力すると、③OUTPUT端子の出力信号の振幅や歪み率に影響を及ぼす事がありますのでご注意ください。また、⑧外部同期入力端子への入力周波数と本機の周波数設定がズレ過ぎていると、③OUTPUT端子の出力の歪みに影響を与えます。よって、⑧外部同期入力端子の入力は1Vrms以下の小さい振幅から少しずつ増やしていってお使いください。

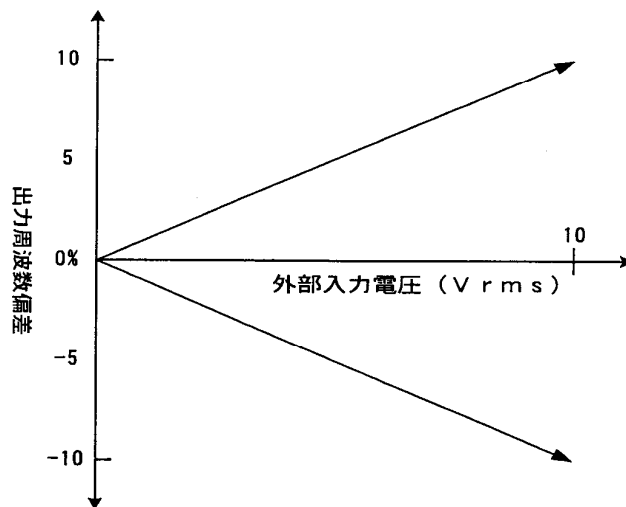


図5-3. EXT SYNC

⚠ 注意

1. ⑧外部同期入力端子へは10V rms以上の電圧を入力しないでください。
2. 接続するケーブルは出来るだけ短いケーブルをご使用ください。長いケーブルを使うとケーブル自身の容量により高周波特性に影響を及ぼします。またシールドされていないケーブルを使うと、ノイズやその他のトラブルの要因になります。
3. 本機の電源ケーブルを接続する前に⑩電源電圧切換器の設定電圧を確認してください。
4. スイッチを入れた直後の出力波形はDC電圧が重畳されていますが、故障ではありません。
20～30秒後に、通常出力波形に戻ります。
5. 本機の出力振幅は温度補償回路により補正されていますが、周囲温度が急激に変わると出力が不安定になることがありますので、ご注意ください。
6. ⑤周波数レンジ設定ボタンは1つのみ選択してください。同時に2つのボタンを押されていたり、何も選択していない場合には、正常に動作しません。
7. ③OUTPUT端子の入カインピーダンスは600Ωです。接続する回路などもインピーダンスの整合性を考えて接続してください。
8. 外来ノイズが⑧外部同期入力端子に飛び込み、影響を与える場合があります。明らかに出力にノイズがのっている場合には、⑧外部同期入力端子を短絡してください。

